

やすらい祭りとおぶり餅



今宮神社のおぶり餅。 一人前、15本で500円。

親指の先ほどに小さくちぎった餅に、きなこをまぶして、炭火でおぶり、白味噌のたれで頂くと、無病息災、無遅刻無欠勤で頑張れる。

ポコアポコの皆さんと一緒に一本ずつ頂いて、神社の境内で食べてみました。

舌の先に香ばしさが漂って、なんか、僕のは御餅が小さいような気がするけど、ほんのりとした甘さで、まあまあ、メダシ、 - -。

でも神さんは、一本だけでも、無病息災の保障を下さるんでしょうか。

「そうでんな、まあ一本だけやと最低保障でんな。山道で滑って、ころんで、肋骨の二、三本を折るぐらいのことは覚悟しといてもらわんと」

やっぱり、そうですか。ポコア・ポコの皆さん、山道を歩くときは、十分気をつけましょうね。

ところで今宮神社の「やすらい祭り」です。

「夜須礼」、あるいは「安良居」とも書くと冊子の説明にありました。

「桜花が散る頃、疫病がはやることから、花よ散らないでくれと昔の人が願ったこと」が祭りの起源なんだそうです。

やすらい、やすらい、やすらい、素敵なひびきで、昔の人々の祈りが聞こえそうですね。

で、まるで安物のサスペンドラマのように、本日が祭りの本番で、僕たちが今宮神社に着くと、拝殿の上になるほど綺麗な花傘が飾られていて、お祭り気分が漂っていました。僕はまた、今宮神社の神さんがあの花傘で花傘音頭でも踊りはるんかと思っていたんですが、家に帰って調べてみると、違うんですね。

「人々は花傘をかかげ笛、太鼓、カネを打ち鳴らし『やすらい花や・・・』と掛け声を掛けながら今宮神社に集まってくるものです」

インターネットで祭りの様子の写真をみると、なるほど大きな花傘の周りで、赤いドテラを羽織った四匹の鬼が笛やカネを鳴らして、身体をくねらせて踊っていました。つまり、この鬼たちと花傘が厄払いの舞いをしながら、あちらこちらから今宮神社に「来るんです」。

例えば、「今宮やすらい」は光念寺を、「川上やすらい」は大神宮司を、それぞれ12時頃に出発して、氏子地域や大徳寺境内を練り歩き、15時頃に今宮神社に到着とあります。

「と、ということはですね、金田一さん、僕たちが今宮神社に着いたのは12時過

ぎだったとして。その時はもう、鬼たちはこの町のどこかで踊っていたというわけですね」

そうですね。確かに僕たちがあぶり餅に夢中になっていた時、祭りは本番を迎えていたんです。うーん、厄除けの鬼に、毎年春先から始まる花粉症を追っ払ってもらおうと思っていたんですが、すれ違いでしたね。



初夏の陽気の一日、桜の花に誘われて、京都、洛北、鷹ヶ峰周辺を歩きました。

「左から順に鷹ヶ峰、鷲ヶ峰、天ヶ峰、ほら、あのなだらかな山の形は、何となく母親の胎内を連想させるでしょう。だから心が穏やかになるんです」

なるほど、光悦寺の庭から見える鷹ヶ峯三山は緑に染まって、なだらかで、穏やかで、おおらかで、光悦さんたちが京の町中から移ってきた気持ちもわかりますね。

それに、ほら、行楽シーズンの嵐山や東山界限は、茶髪やミニスカが喧騒の中でひしめきあっているけど、ほんとにここは嘘のように静かで、のどかで、かわいいハチドリみたいなやつがブンブン飛ぶし、ん、？、何、！、何言ってるんですか、それは虻ですよ、アブないですよ。

洛北は、吉野太夫の常照時、迷いの窓、悟りの窓の源光庵、芸術村の光悦寺、それから鷹ヶ峯街道を下って、お土居を越えて、長坂口から洛中に入ると、紙家川、紫野、千本通りと、響きの美しい名前のところをグルグル巡って、やすらい祭りの今宮神社、千の祈りの蓮台寺。冥土を巡る閻魔堂。おかめ伝説の千本釈迦堂。道真の怨霊・北野天神、そして、夜桜舞い散る平野神社まで、ハッキリ言って夏でしたね。

で、肝心の桜は。もちろん当てましたとも。

常照時の吉野桜は、一番に見たせいか、一番でしたね。それから、鷹ヶ峯街道「しょうざん」芸術村の入り口の枝垂桜、歴史が浅いだけに、芸術家気取りで風格がないのが気になりましたが、大きいし、華やかで、まあまあでしょう。

紫野の上品蓮台寺の枝垂れ桜は上品だけに上品で、枝垂れもいいけど、ボタンも満開で、どうですか、今夜あたりお墓を眺めながら夜桜で一杯。

それにしても、今日はどこの桜も満開で、あれ、千本釈迦堂のおかめ桜は、うん？、どうしたんでしょう？。咲いてないじゃないですか。ねえ、そこでラジオを聴いてるお父さん、え、当てたって - - ?。桜を - - ?、阪神競馬 - - ?、何言ってるんですか、それは、桜は桜でも「桜花賞」じゃないですか。

(<http://www.ne.jp/asahi/alkemist/s/TA09/T09023.htm>)